

本県教育の特色を表す各種データ集

(令和5年8月作成)

鹿児島県教育委員会

目 次

事 項	頁
1 学校教育関連	
① 小学校(国公立)では、1学校、1学級、教員1人当たりの児童数が少なく、児童1人当たりの教員数の割合が高い。	1
② 中学校(国公立)では、1学校、1学級、教員1人当たりの生徒数が少なく、生徒1人当たりの教員数の割合が高い。	2
③ 小学校(公立)では、県全体の本務教員数に占める男性教員の割合が高い。	3
④ 小・中学校(公立)では、へき地にある学校の割合が高い。	4
⑤ 小・中学校(公立)では、県全体の学級数に占める複式学級の割合が高い。	5
⑥ 小・中学校(公立)では、山村留学制度を導入している学校が多い。	6
⑦ 小・中学校において、読書に親しんでいる児童生徒の割合が高い。	7
⑧ 工業高校生(国公立)のジュニアマイスター顕彰(資格取得)の認定数が多い。	8
⑨ 大学等(大学、短大、専攻科等)進学者に占める、大学(学部)への進学者の割合が低い。	9
⑩ 高校卒業者(国公立)の就職率が高い。	10
⑪ 高校卒業者(国公立)の県外への就職率が高い。	11
⑫ 公立高等学校入学者の充足率(募集定員に対する入学者数)が低い。	12
⑬ 在籍生徒数のうち専門学科の在籍生徒数の割合が高い。	13
⑭ 英検準1級程度(CEFR B2レベル)以上を取得している高校の英語担当教員の割合が低い。	14
⑮ 英検準2級程度(CEFR A2レベル)の英語力を有している生徒(高校3年生)の割合が低い。	15
⑯ 本県の教員は、ICT活用指導力向上に係る研修に積極的に取り組んでいる。	16
⑰ 小学校において、授業の様々な場面で「ほぼ毎日」ICTが活用されている割合が全国に比べると高い。	17
2 学校施設関連	
① 教職員住宅建設戸数が、県、市町村とも多い。	18
3 青少年教育関連	
① スポーツ少年団の登録団数及び小学生の加入率が高い。	19
② 「市町村子ども読書活動推進計画」の策定率が高い。	20
③ 住んでいる地域の行事への児童生徒の参加率が高い。	21
4 家庭教育関連	
① 「家庭の日」の発祥の町は、鹿児島県さつま町(旧鶴田町)である。	22
② 家庭教育や地域ぐるみの子育てに対する父親の参加が活発である。	23
③ 県PTA連合会の重点運動「一家庭一家訓の設定」は、全国に先駆けた家庭教育の実践運動である。	24
5 社会教育施設関連	
① 優良公民館としての受賞館(文部科学大臣表彰)が多い。	25
6 生涯学習関連	
① 県人口に占める放送大学学習センターの在学者数の割合が高い。	26
7 文化財関連	
① 国の特別天然記念物の指定数が多い。	27
② 屋久島の縄文杉は、日本最大のスギである。	28
③ ツルの渡来地である出水平野は、渡来数日本一である。	29
④ 始良市蒲生町のクスノキは、日本一の大クスである。	30
⑤ 上野原遺跡は、国内で最古最大級の縄文時代早期前葉(約9,500年前)の定住化した集落跡である。	31
⑥ 上野原遺跡に代表される南九州の縄文時代早期後葉(約7,500年前)の遺跡から出土した壺形土器と土製耳飾りは、国内最古級の資料である。	32
⑦ 旧石器時代の生活跡(南種子町横峯C遺跡・中種子町立切遺跡)と落とし穴の跡(中種子町立切遺跡)は、国内最古級である。	33

1 学校教育関連

事項 ① 小学校（国公立）では，1学校，1学級，教員1人当たりの児童数が少なく，児童1人当たりの教員数の割合が高い。

(各年5月1日現在：単位(人))

学年	1学校当たりの児童数			1学級当たりの児童数			教員1人当たりの児童数		
	順位	都道府県	児童数	順位	都道府県	児童数	順位	都道府県	児童数
2	1	高知	140.0	1	高知	16.3	1	島根	10.7
	2	島根	169.6	2	島根	17.0	2	高知	10.8
	3	鹿児島	177.0	3	徳島	17.9	3	徳島	11.4
	4	和歌山	179.4	4	鹿児島	18.2	4	和歌山	11.4
	5	徳島	182.5	5	岩手	18.6	5	鳥取	11.7
	全国		322.7	全国		23.1	6	鹿児島	11.9
3	1	高知	138.8	1	高知	16.4	1	高知	10.6
	2	島根	168.3	2	島根	17.1	2	島根	10.7
	3	和歌山	176.8	3	徳島	17.7	3	和歌山	11.2
	4	鹿児島	178.0	4	鹿児島	17.9	4	徳島	11.4
	5	徳島	182.8	5	鳥取	18.4	5	鳥取	11.6
	全国		321.9	全国		22.8	6	鹿児島	11.8
4	1	高知	138.0	1	高知	16.3	1	高知	10.7
	2	島根	167.0	2	島根	17.0	2	徳島	10.8
	3	和歌山	175.0	3	徳島	17.4	3	和歌山	10.9
	4	鹿児島	176.7	4	鹿児島	17.5	4	鳥取	11.2
	5	徳島	180.9	5	和歌山	18.2	5	鹿児島	11.6
	全国		321.0	全国		22.4	全国		14.5

【出典，資料】

学校基本調査に基づく数値により算出（教育行政基礎資料から）

説明又は解説 本県は，地理的要因から，へき地等指定学校が多く，また，小規模校が多いため，小学校（国公立）の1学校，1学級，教員1人当たりの児童数が少なくなっている。

このことから実態として児童1人に関わる教員数の割合が高いことが伺える。

参考

事項 ② 中学校（国公立）では，1学校，1学級，教員1人当たりの生徒数が少なく，生徒1人当たりの教員数の割合が高い。

（各年5月1日現在：単位（人））

データ
1
2
3
4
等

学年	1学校当たりの生徒数			1学級当たりの生徒数			教員1人当たりの生徒数		
	順位	都道府県	生徒数	順位	都道府県	生徒数	順位	都道府県	生徒数
2	1	高知	132.8	1	島根	21.1	1	高知	8.2
	2	島根	176.5	2	徳島	21.9	2	島根	9.2
	3	和歌山	184.6	3	秋田	22.7	3	徳島	10.0
	4	長崎	189.8	4	高知	22.8	4	青森	10.1
	5	岩手	196.1	5	岩手	23.1	5	秋田	10.2
	9	鹿児島	198.7	19	鹿児島	26.0	9	鹿児島	10.6
全国		316.6	全国		27.2	全国		13.0	
3	1	高知	133.8	1	高知	20.6	1	高知	8.4
	2	島根	179.4	2	徳島	21.0	2	島根	9.3
	3	和歌山	185.0	3	島根	21.3	3	徳島	10.0
	4	青森	190.7	4	鳥取	22.0	4	青森	10.1
	5	長崎	192.4	5	秋田	22.2	5	秋田	10.1
	9	鹿児島	203.1	19	鹿児島	24.5	8	鹿児島	10.6
全国		320.5	全国		26.9	全国		13.0	
4	1	高知	132.9	1	高知	20.4	1	高知	8.4
	2	島根	177.0	2	徳島	20.9	2	島根	9.3
	3	和歌山	184.5	3	島根	21.0	3	青森	9.9
	4	青森	186.2	4	鳥取	21.8	4	秋田	9.9
	5	長崎	192.3	5	秋田	21.8	5	徳島	10.0
	9	鹿児島	203.6	19	鹿児島	24.2	8	鹿児島	10.6
全国		320.1	全国		26.7	全国		13.0	

【出典，資料】

学校基本調査に基づく数値により算出（教育行政基礎資料から）

説明又は解説

本県は，地理的要因から，へき地等指定学校が多く，また，小規模校が多いため，中学校（国公立）の1学校，1学級，教員1人当たりの生徒数が少なくなっている。

このことから実態として生徒1人に関わる教員数の割合が高いことが伺える。

参考

事項

③ 小学校（公立）では，県全体の本務教員数に占める男性教員の割合が高い。

データ

		男性教員の占める割合			(各年5月1日現在)		
年度	公立小学校			【参考】公立中学校			
	順位	都道府県	割合(%)	順位	都道府県	割合(%)	
2	1	北海道	46.1	1	北海道	62.7	
	2	鹿児島	43.5	2	長野	61.7	
	3	長崎	42.0	3	静岡	60.7	
	4	鳥取	41.6	4	岐阜	60.0	
	5	長野	41.2	5	群馬	58.4	
		9	鹿児島	57.4			
	全国		37.5	全国		55.8	
3	1	北海道	46.2	1	北海道	62.5	
	2	鹿児島	42.7	2	長野	60.9	
	3	長崎	41.3	3	静岡	60.2	
	4	静岡	41.0	4	岐阜	59.4	
	5	長野	40.8	5	鳥取	58.0	
		13	鹿児島	56.7			
	全国		37.4	全国		55.5	
4	1	北海道	46.2	1	北海道	62.4	
	2	鹿児島	42.5	2	長野	60.6	
	3	長崎	40.8	3	静岡	59.9	
	4	長野	40.7	4	岐阜	58.8	
	5	静岡	40.5	5	鳥取	57.7	
		13	鹿児島	56.0			
	全国		37.3	全国		55.3	

【出典，資料】

学校基本調査に基づく数値により算出（教育行政基礎資料から）

説明又は解説

全国的な傾向として，小学校では女性教員の占める割合が高く，中学校では男性教員の占める割合が高い。
本県においては，近年，公立小学校・公立中学校でもほぼ横ばいとなっている。

参考

④ 小・中学校（公立）では、へき地にある学校の割合が高い。

（令和4年5月1日現在） （参考）

種	順位	都道府県	全学校数	へき地等		全児童 生徒数	へき地等学校	
				学校数	割合(%)		児童生徒数	割合(%)
小学校	1	鹿児島	492	203	41.3	86,418	10,867	12.6
	2	北海道	959	334	34.8	225,847	23,894	10.6
	3	沖縄	263	84	31.9	99,574	8,690	8.7
	4	島根	197	59	29.9	32,892	3,004	9.1
	5	高知	220	63	28.6	29,715	1,086	3.7
		全 国	18,851	1,648	8.7	6,035,384	87,823	1.5
中学校	1	鹿児島	212	87	41.0	43,000	5,017	11.7
	2	北海道	554	204	36.8	116,587	12,426	10.7
	3	沖縄	142	51	35.9	47,273	4,316	9.1
	4	島根	92	28	30.4	16,594	1,402	8.4
	5	高知	115	33	28.7	13,088	534	4.1
		全 国	9,164	873	9.5	2,931,722	43,607	1.5

※へき地等学校数は、へき地、準へき地及び特別地の合計数である。

【出典，資料】 学校基本調査（令和4年5月1日現在）

説明又は解説
 へき地等学校は、へき地教育振興法等に基づき、文部科学省が定める基準により、おおむね6年ごとに指定している。（直近の指定は令和4年4月1日）
 本県でへき地等学校の割合が高い理由としては、離島の学校が多いこと（小：135校，中：70校，義：4校。へき地等学校中約73%）などが考えられる。

参考

事項

⑤ 小・中学校（公立）では，県全体の学級数に占める複式学級の割合が高い。

データ

1

2

等

(各年5月1日現在)

年度	公立小学校			公立中学校		
	順位	都道府県	割合(%)	順位	都道府県	割合(%)
2	1	鹿児島	10.1	1	鹿児島	1.74
	2	高知	7.2	2	沖縄	0.95
	3	島根	6.5	3	福島	0.72
	4	山口	5.7	4	和歌山	0.62
	5	和歌山	5.6	5	宮崎	0.62
	全国		1.6	全国		0.15
3	1	鹿児島	9.8	1	鹿児島	1.46
	2	高知	8.1	2	沖縄	0.80
	3	島根	6.6	3	宮崎	0.67
	4	和歌山	5.8	4	北海道	0.62
	5	山口	5.7	5	長崎	0.60
	全国		1.6	全国		0.14
4	1	鹿児島	9.9	1	鹿児島	1.23
	2	高知	8.2	2	北海道	0.69
	3	島根	6.8	3	沖縄	0.67
	4	山口	5.8	4	和歌山	0.61
	5	和歌山	5.6	5	高知	0.56
	全国		1.6	全国		0.13

【出典，資料】

学校基本調査に基づく数値により算出（教育行政基礎資料から）

説明又は解説

本県は，地理的要因から，へき地等にある学校が多く，また，小規模校が多いため，複式学級の占める割合が高いと考えられる。

参考

事項	⑥ 小・中学校（公立）では，山村留学制度を導入している学校が多い。																																										
データ	<p>○ 令和3年度 都道府県別の山村留学生受入人数</p> <table border="1" data-bbox="395 465 906 790"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都道府県</th> <th>受入人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>鹿児島県</td> <td>203</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>長野県</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>北海道</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>山梨県</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>群馬県</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="938 465 1401 683"> <thead> <tr> <th>山村留学（全国）</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施都道府県</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>実施自治体</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>実施校</td> <td>147</td> </tr> </tbody> </table> <p><NPO法人全国山村留学協会HP確認（令和5年5月1日現在）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・任意の調査のため，下記の【参考】の本県独自調査に記してある数字とは異なる。 ・NPO法人全国山村留学協会HP更新は隔年。次回は令和5年7月の予定。 <p>【参考】 本県における山村留学制度の導入の状況（県の独自調査） （令和5年4月6日現在）</p> <table border="1" data-bbox="395 1108 1228 1326"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>実施市町村</th> <th>受け入れ学校数</th> <th>留学生数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>16</td> <td>67</td> <td>256</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>21</td> <td>63</td> <td>252</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>22</td> <td>65</td> <td>281</td> </tr> </tbody> </table>	順位	都道府県	受入人数(人)	1	鹿児島県	203	2	長野県	128	3	北海道	64	4	山梨県	55	5	群馬県	34	山村留学（全国）	件数	実施都道府県	21	実施自治体	63	実施校	147	年 度	実施市町村	受け入れ学校数	留学生数	令和3年度	16	67	256	令和4年度	21	63	252	令和5年度	22	65	281
順位	都道府県	受入人数(人)																																									
1	鹿児島県	203																																									
2	長野県	128																																									
3	北海道	64																																									
4	山梨県	55																																									
5	群馬県	34																																									
山村留学（全国）	件数																																										
実施都道府県	21																																										
実施自治体	63																																										
実施校	147																																										
年 度	実施市町村	受け入れ学校数	留学生数																																								
令和3年度	16	67	256																																								
令和4年度	21	63	252																																								
令和5年度	22	65	281																																								
説明又は解説	<p>本県の小・中学校は，その約半数がへき地・小規模校である。</p> <p>小規模校においては児童生徒数の減少が課題の一つであるが，少人数指導によるきめ細かな教育や特色ある教育活動を生かし，山村留学制度を充実させることによって学校や地域の活性化を図っている。</p>																																										
参考																																											

事項

⑦ 小・中学校において、読書に親しんでいる児童生徒の割合が高い。

データ等

<全国学力・学習状況調査の質問紙調査>

質問事項「読書は好きですか。」に「当てはまる」と回答した児童・生徒の割合 (%)

調査年度	鹿児島県		全国	全国との差
平成28年度	小6	52.7	49.3	3.4
	中3	49.2	46.5	2.7
平成29年度	小6	52.1	49.0	3.1
	中3	49.0	46.1	2.9
平成30年度	小6	調査項目無し		
	中3	調査項目無し		
令和元年度	小6	47.2	44.3	2.9
	中3	42.3	38.9	3.4
令和3年度	小6	調査項目無し		
	中3	調査項目無し		
令和4年度	小6	43.7	41.9	1.8
	中3	41.0	37.9	3.1

※ 令和2年度は中止

質問事項「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に「全くしない」と回答した児童・生徒の割合 (%)

調査年度	鹿児島県		全国	全国との差
令和元年度	小6	12.6	18.7	6.1
	中3	23.7	34.8	11.1
令和3年度	小6	15.8	24.0	8.2
	中3	26.4	37.4	11.0
令和4年度	小6	20.2	26.3	6.1
	中3	29.3	39.0	9.7

※ 令和2年度は中止

【出典，資料】

「全国学力・学習状況調査」児童・生徒質問紙調査結果

説明又は解説

毎年4月に実施される「全国学力・学習状況調査」（小学校6年生，中学校3年生：悉皆調査）における児童・生徒質問紙調査結果において、「読書が好きである」と回答した本県の児童・生徒は全国平均を上回っている。また、「普段、読書を全くしない」と回答した本県の児童・生徒は一定数見られるものの、全国平均よりも低い。

参考

事項 ⑧ 工業高校生（国公立）のジュニアマイスター顕彰（資格取得）の認定数が多い。

1
タ
等
等

年度	順位	都道府県名	申請者数
R2	1	愛知	1,037
	2	福岡	1,004
	3	熊本	901
	4	鹿児島	861
	4	長崎	861
	6	北海道	608
	7	岡山	571
	8	兵庫	570
	9	福島	522
	10	青森	480
全		国	15,422
R3	1	福岡	1,126
	2	愛知	1,068
	3	熊本	1,066
	4	鹿児島	788
	5	長崎	787
	6	北海道	651
	7	福島	635
	8	岡山	519
	9	青森	511
	10	兵庫	489
全		国	15,931
R4	1	福岡	1,159
	2	愛知	935
	3	熊本	926
	4	長崎	870
	5	鹿児島	760
	6	福島	626
	7	北海道	595
	8	兵庫	589
	9	青森	473
	10	岩手	441
全		国	15,044

(参考)
 ◎ジュニアマイスター顕彰制度
 現在200以上の職業資格・検定と約80のコンテストが点数化されており、その中から生徒が在学中に取得した職業資格や各検定の等級、入賞したコンテストに対して得た点数の合計によって、20点以上を『ジュニアマイスターブロンズ』、30点以上を『ジュニアマイスターシルバー』、さらに45点以上の特に優れた生徒には『ジュニアマイスターゴールド』の称号を贈っている。
 (全国工業高等学校長協会)

※H30ジュニアマイスターブロンズ新設

【出典，資料】全国工業高等学校長協会資料から作成（毎年度3月現在）

説明
又は
解説

本県は、県産業教育審議会専門部会（工業）において、工業高校の活性化への取組の一つに「職業資格取得へのチャレンジ」をあげており、県高等学校教育研究会工業部会主催の「ハイグレードセミナー」の実施や、各学校において、国家資格や検定試験などに積極的に取り組んでいる。
 成果として、鹿児島県の工業高校生のジュニアマイスター顕彰制度の認定者数は、令和4年度全国5位となっており、常に全国上位である。

参考

事項	⑨ 大学等（大学，短大，専攻科等）進学者に占める，大学（学部）への進学者の割合が低い。																																																												
データ等	<p>◎大学（学部）進学率が<u>低位</u>の都道府県（国公私立高校合計分）</p> <table border="1" data-bbox="328 450 1366 1140"> <thead> <tr> <th>卒業年月</th> <th>順位</th> <th>都道府県名</th> <th>割合(%)</th> <th>全国平均(%)</th> <th>九州平均(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">R 2. 3</td> <td>1</td> <td>鹿児島</td> <td>75. 2</td> <td rowspan="5">91. 5</td> <td rowspan="5">86. 3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大分</td> <td>79. 4</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>鳥取</td> <td>82. 2</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>宮崎</td> <td>83. 6</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>長野</td> <td>85. 1</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">R 3. 3</td> <td>1</td> <td>鹿児島</td> <td>75. 4</td> <td rowspan="5">92. 0</td> <td rowspan="5">86. 7</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大分</td> <td>80. 0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>鳥取</td> <td>83. 5</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>宮崎</td> <td>85. 0</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>長野</td> <td>85. 7</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">R 4. 3</td> <td>1</td> <td>鹿児島</td> <td>77. 7</td> <td rowspan="5">92. 8</td> <td rowspan="5">87. 6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大分</td> <td>81. 3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>鳥取</td> <td>84. 8</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>秋田</td> <td>85. 8</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>宮崎</td> <td>86. 2</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出典，資料】 学校基本調査に基づく数値により算出(教育行政基礎資料から)</p>	卒業年月	順位	都道府県名	割合(%)	全国平均(%)	九州平均(%)	R 2. 3	1	鹿児島	75. 2	91. 5	86. 3	2	大分	79. 4	3	鳥取	82. 2	4	宮崎	83. 6	5	長野	85. 1	R 3. 3	1	鹿児島	75. 4	92. 0	86. 7	2	大分	80. 0	3	鳥取	83. 5	4	宮崎	85. 0	5	長野	85. 7	R 4. 3	1	鹿児島	77. 7	92. 8	87. 6	2	大分	81. 3	3	鳥取	84. 8	4	秋田	85. 8	5	宮崎	86. 2
卒業年月	順位	都道府県名	割合(%)	全国平均(%)	九州平均(%)																																																								
R 2. 3	1	鹿児島	75. 2	91. 5	86. 3																																																								
	2	大分	79. 4																																																										
	3	鳥取	82. 2																																																										
	4	宮崎	83. 6																																																										
	5	長野	85. 1																																																										
R 3. 3	1	鹿児島	75. 4	92. 0	86. 7																																																								
	2	大分	80. 0																																																										
	3	鳥取	83. 5																																																										
	4	宮崎	85. 0																																																										
	5	長野	85. 7																																																										
R 4. 3	1	鹿児島	77. 7	92. 8	87. 6																																																								
	2	大分	81. 3																																																										
	3	鳥取	84. 8																																																										
	4	秋田	85. 8																																																										
	5	宮崎	86. 2																																																										
説明又は解説	本県は，短期大学進学者と高等学校（専攻科）進学者の割合が全国と比較して高いため，大学（学部）への進学者の割合が低い。																																																												
参考	<p>◎大学等進学率（現役）</p> <table border="1" data-bbox="328 1742 1078 1915"> <thead> <tr> <th>卒業年月</th> <th>全国平均(%)</th> <th>鹿児島(%)</th> <th>順位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2.3</td> <td>55. 8%</td> <td>43. 5%</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>R3.3</td> <td>57. 4%</td> <td>45. 1%</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>R4.3</td> <td>59. 5%</td> <td>46. 5%</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出典，資料】 学校基本調査に基づく数値により算出(教育行政基礎資料から)</p>	卒業年月	全国平均(%)	鹿児島(%)	順位	R2.3	55. 8%	43. 5%	46	R3.3	57. 4%	45. 1%	45	R4.3	59. 5%	46. 5%	45																																												
卒業年月	全国平均(%)	鹿児島(%)	順位																																																										
R2.3	55. 8%	43. 5%	46																																																										
R3.3	57. 4%	45. 1%	45																																																										
R4.3	59. 5%	46. 5%	45																																																										

事項

⑩ 高校卒業者（国公立）の就職率が高い。

データ等

卒業年月	順位	都道府県名	割合(%)
R2.3	1	佐賀	32.8
	2	秋田	31.1
	3	山口	31.0
	4	青森	30.2
	5	福島	29.3
	6	宮崎	28.8
	7	長崎	28.6
	8	岩手	28.4
	9	山形	28.1
	10	鹿児島	27.5
	11	三重	27.0
	全 国		
R3.3	1	山口	29.9
	2	佐賀	28.9
	3	秋田	27.8
	4	宮崎	27.4
	5	山形	27.3
	6	岩手	27.1
	7	長崎	27.0
	8	福島	26.8
	9	青森	26.5
	10	三重	25.5
	11	鹿児島	24.6
	全 国		
R4.3	1	佐賀	28.5
	2	山口	28.0
	3	秋田	27.5
	4	宮崎	26.0
	5	福島	25.9
	6	岩手	25.4
	7	山形	25.2
	8	長崎	25.0
	9	三重	24.7
	10	青森	24.2
	11	熊本	23.8
	12	鹿児島	23.2
	全 国		

【出典，資料】

学校基本調査に基づく数値により算出（卒業後の状況調査から）

説明又は解説

本県は専門学科在籍者の割合が高く，専門学科の卒業者の多くが就職することから，就職率が高い。

参考

○ その他の九州各県の状況
14位 大分（22.5%），36位 福岡（15.5%），39位 沖縄（12.6%）

事項

⑪ 高校卒業者（国公立）の県外への就職率が高い。

データ

卒業年月	順位	都道府県名	割合(%)
R2.3	1	青森	44.8
	2	鹿児島	44.0
	3	宮崎	41.9
	4	佐賀	39.2
	5	熊本	39.1
	全 国		19.0
R3.3	1	青森	41.3
	2	鹿児島	40.2
	3	宮崎	39.5
	4	熊本	38.3
	5	佐賀	34.2
	全 国		18.1
R4.3	1	熊本	37.6
	2	宮崎	37.5
	3	青森	37.4
	4	鹿児島	35.5
	5	佐賀	33.6
	全 国		17.5

〈参考〉

鹿児島県高等学校令和4年
3月卒業者数 13,764人

就職者数	3,194人 (23.2%)
県内就職	2,059人 (64.5%)
県外就職	1,135人 (35.5%)

【出典，資料】

学校基本調査に基づく数値により算出（教育行政基礎資料から）

説明
又は
解説

本県は、ここ数年、県外就職割合は減少しているが、全国平均と比較すると、高い傾向にある。

主な理由に、大都市で働きたい（41.5%）、居住市町村内に就職先がない（18.7%）、県外は賃金が高い（9.6%）が挙げられる。

参
考

○ 県外就職者の就職先の内訳（上位5都道府県）

都道府県名	福岡	東京	愛知	大阪	神奈川
人数	271	182	132	122	67

事項

⑫ 公立高等学校入学者の充足率（募集定員に対する入学者数）が低い。

データ等

◎公立高等学校入学者の充足率が低い順（全日制課程）

年月	順位	都道府県名	割合(%)	全国割合(%)	九州割合(%)
R 2. 5	1	高知	65.1	91.1	87.2
	2	熊本	77.7		
	3	鹿児島	78.1		
	4	岩手	80.2		
	5	愛媛	81.6		
R 3. 5	1	高知	64.6	88.9	84.2
	2	鹿児島	73.1		
	3	熊本	73.5		
	4	愛媛	76.7		
	5	岩手	76.9		
R 4. 5	1	高知	64.3	89.5	85.4
	2	鹿児島	73.7		
	3	熊本	74.7		
	4	岩手	77.6		
	5	長崎	79.2		

【出典，資料】

学校基本調査に基づく数値により算出

説明又は解説

本県の公立高校全日制課程への入学充足率は、他県と比較して低い。入学充足率が低い都道府県は、1学年3学級以下の小規模校の割合が多い。

参考

◎R 4 公立全日制学校規模（1学年3学級以下の割合が高い順）

順位	都道府県	学校数	3学級以下	割合
1	北海道	213	110	51.6
2	鹿児島	68	33	48.5
3	高知	33	16	48.5
4	岩手	63	30	47.6
5	長崎	55	26	47.3
合計		3305	736	22.3

【出典，資料】富山県教育委員会調査

事項	⑬ 在籍生徒数のうち専門学科の在籍生徒数の割合が高い。																																																												
データ等	<p>◎専門学科に在籍する生徒の割合（公立全日制課程）</p> <table border="1" data-bbox="328 450 1366 1140"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>順位</th> <th>都道府県名</th> <th>割合(%)</th> <th>全国割合(%)</th> <th>九州割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">R 2 . 5</td> <td>1</td> <td>宮 崎</td> <td>5 6 . 0</td> <td rowspan="5">2 7 . 4</td> <td rowspan="5">3 6 . 8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>鹿児島</td> <td>4 7 . 5</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>岡 山</td> <td>4 4 . 9</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>佐 賀</td> <td>4 2 . 8</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>福 島</td> <td>4 1 . 2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">R 3 . 5</td> <td>1</td> <td>宮 崎</td> <td>5 6 . 4</td> <td rowspan="5">2 7 . 4</td> <td rowspan="5">3 6 . 9</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>鹿児島</td> <td>4 7 . 3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>岡 山</td> <td>4 5 . 1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>佐 賀</td> <td>4 2 . 7</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>福 島</td> <td>4 1 . 1</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">R 4 . 5</td> <td>1</td> <td>宮 崎</td> <td>5 6 . 1</td> <td rowspan="5">2 7 . 3</td> <td rowspan="5">3 6 . 7</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>鹿児島</td> <td>4 7 . 4</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>福 井</td> <td>4 5 . 3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>岡 山</td> <td>4 4 . 9</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>佐 賀</td> <td>4 2 . 5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出典，資料】 学校基本調査に基づく数値により算出</p>	年月	順位	都道府県名	割合(%)	全国割合(%)	九州割合(%)	R 2 . 5	1	宮 崎	5 6 . 0	2 7 . 4	3 6 . 8	2	鹿児島	4 7 . 5	3	岡 山	4 4 . 9	4	佐 賀	4 2 . 8	5	福 島	4 1 . 2	R 3 . 5	1	宮 崎	5 6 . 4	2 7 . 4	3 6 . 9	2	鹿児島	4 7 . 3	3	岡 山	4 5 . 1	4	佐 賀	4 2 . 7	5	福 島	4 1 . 1	R 4 . 5	1	宮 崎	5 6 . 1	2 7 . 3	3 6 . 7	2	鹿児島	4 7 . 4	3	福 井	4 5 . 3	4	岡 山	4 4 . 9	5	佐 賀	4 2 . 5
年月	順位	都道府県名	割合(%)	全国割合(%)	九州割合(%)																																																								
R 2 . 5	1	宮 崎	5 6 . 0	2 7 . 4	3 6 . 8																																																								
	2	鹿児島	4 7 . 5																																																										
	3	岡 山	4 4 . 9																																																										
	4	佐 賀	4 2 . 8																																																										
	5	福 島	4 1 . 2																																																										
R 3 . 5	1	宮 崎	5 6 . 4	2 7 . 4	3 6 . 9																																																								
	2	鹿児島	4 7 . 3																																																										
	3	岡 山	4 5 . 1																																																										
	4	佐 賀	4 2 . 7																																																										
	5	福 島	4 1 . 1																																																										
R 4 . 5	1	宮 崎	5 6 . 1	2 7 . 3	3 6 . 7																																																								
	2	鹿児島	4 7 . 4																																																										
	3	福 井	4 5 . 3																																																										
	4	岡 山	4 4 . 9																																																										
	5	佐 賀	4 2 . 5																																																										
説明又は解説	<p>本県は他県と比較し，専門学科に進学する生徒の割合が高い。 本県では公立高校68校に69の専門学科（大学科）を設置しており，他県と比較しても設置率が高い。</p>																																																												
参考	<p>◎ R 4 公立全日制課程における専門学科（大学科）設置率</p> <table border="1" data-bbox="328 1655 1299 1957"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都道府県</th> <th>公立高校数</th> <th>専門学科数</th> <th>設置率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>宮 崎</td> <td>3 4</td> <td>4 2</td> <td>1.235</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>福 井</td> <td>2 4</td> <td>2 9</td> <td>1.208</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>鹿児島</td> <td>6 8</td> <td>6 9</td> <td>1.015</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>岡 山</td> <td>5 2</td> <td>5 1</td> <td>0.981</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>香 川</td> <td>3 0</td> <td>2 9</td> <td>0.967</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>3 3 2 1</td> <td>2 2 3 9</td> <td>0.568</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出典，資料】 学校基本調査に基づく数値により算出</p>	順位	都道府県	公立高校数	専門学科数	設置率	1	宮 崎	3 4	4 2	1.235	2	福 井	2 4	2 9	1.208	3	鹿児島	6 8	6 9	1.015	4	岡 山	5 2	5 1	0.981	5	香 川	3 0	2 9	0.967	合計		3 3 2 1	2 2 3 9	0.568																									
順位	都道府県	公立高校数	専門学科数	設置率																																																									
1	宮 崎	3 4	4 2	1.235																																																									
2	福 井	2 4	2 9	1.208																																																									
3	鹿児島	6 8	6 9	1.015																																																									
4	岡 山	5 2	5 1	0.981																																																									
5	香 川	3 0	2 9	0.967																																																									
合計		3 3 2 1	2 2 3 9	0.568																																																									

事項	⑭ 英検準1級程度（CEFR B2レベル）以上を取得している高校の英語担当教員の割合が低い。																																																																														
データ	<p>◎ 英検準1級程度（CEFR B2レベル）以上を取得している高校の英語担当教員の割合が低位の都道府県</p> <table border="1" data-bbox="277 537 1385 1055"> <thead> <tr> <th colspan="4">令和3年度</th> <th colspan="4">令和4年度</th> </tr> <tr> <th>順位</th> <th>都道府県名</th> <th>割合(%)</th> <th>全国平均(%)</th> <th>順位</th> <th>都道府県名</th> <th>割合(%)</th> <th>全国平均(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>55.5</td> <td rowspan="10">74.9</td> <td>1</td> <td>宮城</td> <td>50.8</td> <td rowspan="10">72.3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>福島</td> <td>56.4</td> <td>2</td> <td>北海道</td> <td>54.8</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>秋田</td> <td>59.2</td> <td>3</td> <td>福島</td> <td>55.3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>宮城</td> <td>61.1</td> <td>4</td> <td>秋田</td> <td>57.9</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>奈良</td> <td>62.7</td> <td>5</td> <td>島根</td> <td>59.9</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>千葉</td> <td>64.1</td> <td>6</td> <td>埼玉</td> <td>60.1</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>埼玉</td> <td>64.2</td> <td>7</td> <td>鹿児島</td> <td>61.2</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>栃木</td> <td>68.1</td> <td>8</td> <td>愛知</td> <td>61.6</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>滋賀</td> <td>68.6</td> <td>9</td> <td>千葉</td> <td>63.9</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>鹿児島</td> <td>69.3</td> <td>10</td> <td>神奈川</td> <td>64.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出典，資料】 英語教育実施状況調査に基づく数値により作成</p>	令和3年度				令和4年度				順位	都道府県名	割合(%)	全国平均(%)	順位	都道府県名	割合(%)	全国平均(%)	1	北海道	55.5	74.9	1	宮城	50.8	72.3	2	福島	56.4	2	北海道	54.8	3	秋田	59.2	3	福島	55.3	4	宮城	61.1	4	秋田	57.9	5	奈良	62.7	5	島根	59.9	6	千葉	64.1	6	埼玉	60.1	7	埼玉	64.2	7	鹿児島	61.2	8	栃木	68.1	8	愛知	61.6	9	滋賀	68.6	9	千葉	63.9	10	鹿児島	69.3	10	神奈川	64.9
令和3年度				令和4年度																																																																											
順位	都道府県名	割合(%)	全国平均(%)	順位	都道府県名	割合(%)	全国平均(%)																																																																								
1	北海道	55.5	74.9	1	宮城	50.8	72.3																																																																								
2	福島	56.4		2	北海道	54.8																																																																									
3	秋田	59.2		3	福島	55.3																																																																									
4	宮城	61.1		4	秋田	57.9																																																																									
5	奈良	62.7		5	島根	59.9																																																																									
6	千葉	64.1		6	埼玉	60.1																																																																									
7	埼玉	64.2		7	鹿児島	61.2																																																																									
8	栃木	68.1		8	愛知	61.6																																																																									
9	滋賀	68.6		9	千葉	63.9																																																																									
10	鹿児島	69.3		10	神奈川	64.9																																																																									
説明又は解説	<p>本県の高校の英語担当教員の特徴として、外部検定を受検した経験のある教員の割合が全国に比べて低いことがあり、英検においては生徒と同じ会場で受検することを敬遠したり、他の外部検定では、試験会場が少なかったり、受検費用が高額であることなどが不受検の原因であると考えられる。その結果、英検準1級程度（CEFR B2レベル）以上を取得している高校の英語担当教員の割合が低くなっている。</p>																																																																														
参考	<p>◎外部検定を受検した経験のある教員の割合 (%)</p> <table border="1" data-bbox="277 1570 1267 1700"> <thead> <tr> <th>調査年度</th> <th>平成28</th> <th>平成29</th> <th>平成30</th> <th>令和元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受検経験割合</td> <td>66.8</td> <td>80.3</td> <td>79.5</td> <td>86.3</td> </tr> <tr> <td>全国比</td> <td>-12.3</td> <td>-2.6</td> <td>-6.0</td> <td>-7.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出典，資料】 英語教育実施状況調査に基づく数値により作成</p>	調査年度	平成28	平成29	平成30	令和元	受検経験割合	66.8	80.3	79.5	86.3	全国比	-12.3	-2.6	-6.0	-7.4																																																															
調査年度	平成28	平成29	平成30	令和元																																																																											
受検経験割合	66.8	80.3	79.5	86.3																																																																											
全国比	-12.3	-2.6	-6.0	-7.4																																																																											

事項	⑮ 英検準2級程度（CEFR A2レベル）の英語力を有している生徒（高校3年生）の割合が低い。																																																								
データ等	<p>◎ 英検準2級程度（CEFR A2レベル）の英語力を有している生徒（高校3年生）の割合が低位の都道府県</p> <table border="1" data-bbox="328 495 1145 1184"> <thead> <tr> <th>調査年</th> <th>順位</th> <th>都道府県名</th> <th>割合(%)</th> <th>全国平均(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">R元</td> <td>1</td> <td>高知</td> <td>33.2</td> <td rowspan="5">43.6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>福島</td> <td>34.7</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>鹿児島</td> <td>35.1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>宮城</td> <td>36.2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>埼玉</td> <td>85.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">R3</td> <td>1</td> <td>福島</td> <td>36.3</td> <td rowspan="5">46.1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>鹿児島</td> <td>37.1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>茨城</td> <td>38.3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>宮崎</td> <td>38.7</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>愛知</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">R4</td> <td>1</td> <td>宮城</td> <td>37.8</td> <td rowspan="5">48.7</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>福島</td> <td>38.3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>鹿児島</td> <td>38.9</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>香川</td> <td>40.2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>高知</td> <td>40.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出典，資料】 英語教育実施状況調査に基づく数値により作成</p>	調査年	順位	都道府県名	割合(%)	全国平均(%)	R元	1	高知	33.2	43.6	2	福島	34.7	3	鹿児島	35.1	4	宮城	36.2	5	埼玉	85.1	R3	1	福島	36.3	46.1	2	鹿児島	37.1	3	茨城	38.3	4	宮崎	38.7	5	愛知	40.0	R4	1	宮城	37.8	48.7	2	福島	38.3	3	鹿児島	38.9	4	香川	40.2	5	高知	40.6
調査年	順位	都道府県名	割合(%)	全国平均(%)																																																					
R元	1	高知	33.2	43.6																																																					
	2	福島	34.7																																																						
	3	鹿児島	35.1																																																						
	4	宮城	36.2																																																						
	5	埼玉	85.1																																																						
R3	1	福島	36.3	46.1																																																					
	2	鹿児島	37.1																																																						
	3	茨城	38.3																																																						
	4	宮崎	38.7																																																						
	5	愛知	40.0																																																						
R4	1	宮城	37.8	48.7																																																					
	2	福島	38.3																																																						
	3	鹿児島	38.9																																																						
	4	香川	40.2																																																						
	5	高知	40.6																																																						
説明又は解説	<p>本県は、高校生の生徒割合の特徴として、普通科と専門学科の費がほぼ1：1であるという現状があり、普通科と専門学科の英語の授業数を比較すると高校3年時では週時間平均で3.3時間の差があることから、英検準2級程度（CEFR A2レベル）の英語力を有している生徒（高校3年生）の割合が低い。</p>																																																								
参考	<p>◎普通科と専門学科の生徒数割合比較（令和4年度）</p> <table border="1" data-bbox="328 1697 959 1827"> <thead> <tr> <th></th> <th>普通科</th> <th>専門学科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鹿児島県</td> <td>50.9%</td> <td>49.1%</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>65.2%</td> <td>27.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出典，資料】 学校基本調査に基づく数値により作成(教育行政基礎資料)</p> <p>◎普通科と専門学科の英語の授業時数比較（週平均時間）</p> <table border="1" data-bbox="328 1912 823 2002"> <thead> <tr> <th>普通科</th> <th>専門学科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5.9</td> <td>2.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出典，資料】 独自調査（令和4年）</p>		普通科	専門学科	鹿児島県	50.9%	49.1%	全国	65.2%	27.4%	普通科	専門学科	5.9	2.6																																											
	普通科	専門学科																																																							
鹿児島県	50.9%	49.1%																																																							
全国	65.2%	27.4%																																																							
普通科	専門学科																																																								
5.9	2.6																																																								

事項	⑯ 本県の教員はICT活用指導力向上に係る研修に積極的に取り組んでいる。						
データ等	全国 順位	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		都道府県名	研修受講率	都道府県名	研修受講率	都道府県名	研修受講率
	1	大分県	92.3%	熊本県	97.1%	長崎県	96.6%
	2	長野県	87.4%	長野県	92.6%	長野県	96.2%
	3	熊本県	81.8%	愛媛県	91.9%	愛媛県	95.8%
	4	岐阜県	81.0%	大分県	90.9%	熊本県	94.9%
	5	徳島県	79.0%	鳥取県	86.5%	石川県	93.7%
	6	愛媛県	77.2%	岐阜県	86.3%	鹿児島県	93.0%
	7	佐賀県	73.6%	石川県	84.3%	岐阜県	92.4%
	8	福井県	65.3%	徳島県	83.2%	大分県	91.7%
	9	鳥取県	64.8%	兵庫県	80.5%	茨城県	91.5%
10	鹿児島県	63.6%	鹿児島県	78.8%	鳥取県	90.7%	
【出典，資料】学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果							
説明または解説	<p>小学校におけるプログラミング教育の必修化（令和2年度から）や高等学校における共通必修科目「情報Ⅰ」の開始，GIGAスクール構想で令和3年度末には全ての公立小・中学校において1人1台端末が整備されたことなど，「教育の情報化」が加速度的に進んだことで，教育委員会や学校でも積極的に研修の機会の充実を図ったことが要因の一つとして考えられる。</p> <p>また，本県においては離島も多く，これまでなかなか研修の機会が得られなかったところがあったが，GIGAスクール構想で通信環境の整備も進んだことから，多くの研修においてオンライン配信も併用したことから，時間的・距離的な側面からこれまで研修の受講がかなわなかった教員も積極的に研修等を受講できるようになったことも要因として考えられる。</p>						
参考	<p>【令和4年度 かごしま「教育の情報化」フォーラムの参加者】 参加総数 443人 うちオンライン参加 135人</p> <p>【令和4年度 総合教育センターで実施した講座の参加者】 全講座数 40講座 うちオンライン対応 19講座 講座参加者総数 767人 うちオンライン参加 256人</p>						

事項	⑰ 小学校において、授業の様々な場面で「ほぼ毎日」ICTが活用されている割合が全国に比べると高い。													
データ等	質 問 内 容		「ほぼ毎日」の割合		全国比	全国順位								
			本県	全国										
	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、 授業でどの程度活用 しましたか。		64.5	58.2	+ 6.3	10								
	調査対象学年の 児童が自分で調べる場面 （ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。		28.7	21.2	+ 7.5	4								
	調査対象学年の 児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面 では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。		27.0	13.7	+13.3	2								
	調査対象学年の 児童がやりとりする場面 では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。		30.9	22.6	+ 8.3	5								
調査対象学年の 児童同士がやりとりする場面 では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。		21.0	11.3	+ 9.7	2									
【出典，資料】令和4年度 全国学力・学習状況調査 学校質問紙														
説明又は解説	<p>令和2年度に、第46回全日本教育工学研究協議会全国大会鹿児島大会が開催されたことにより、県内の教員のICT活用への関心が高まり、ICT活用の様々な事例に触れる機会が多かったことが要因の一つとして考えられる。</p> <p>また、GIGAスクール構想で令和3年度末には全ての公立小・中学校において1人1台端末が整備されたことを受け、教員が積極的に研修等に参加したこと（研修参加率全国6位）も要因と考えられるが、特に小学校では基本的にほぼ全教科を1人で指導するため、授業の様々な場面における活用の模索が進んだことで割合が高くなったと考えられる。</p> <p>さらに、県教委においてもWebを積極的に活用して県内の全教員を対象に情報の共有・発信に取り組み、県内外の好事例の共有ができたことで、割合が高くなったとも考える。</p>													
参考	<p>【教員の研修参加率】</p> <table border="1" data-bbox="272 1733 954 1816"> <tr> <td>本県</td> <td>全国</td> <td>全国比</td> <td>全国順位</td> </tr> <tr> <td>93.0</td> <td>75.8</td> <td>+17.2</td> <td>6位</td> </tr> </table> <p>【出典，資料】令和4年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査</p> <p>【Webを積極的に活用した情報共有・発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かごしま『GIGAスクール構想の実現に向けて』（総合教育センターHP） ・「KagogaGIGA情報交流室」（Microsoft Teams） 						本県	全国	全国比	全国順位	93.0	75.8	+17.2	6位
本県	全国	全国比	全国順位											
93.0	75.8	+17.2	6位											

本県教育の特色を表すデータ

事項	① 教職員住宅建設戸数が，県，市町村とも多い。 (公立学校共済組合の資金活用による累計建設戸数)																																																
データ等	<p>県教職員住宅建設状況(令和3年度末累計) 単位:戸・千円</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都道府県名</th> <th>戸数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>10,364</td> <td>104,006,663</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>長野</td> <td>2,440</td> <td>25,387,491</td> </tr> <tr style="border: 2px solid black;"> <td>3</td> <td>鹿児島</td> <td>1,697</td> <td>18,483,467</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>千葉</td> <td>1,517</td> <td>14,363,641</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>東京</td> <td>1,492</td> <td>24,384,556</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">※ 昭和37年度以降建設の県立学校及び事務局分</p> <p>市町村教職員住宅建設状況(令和3年度末累計) 単位:戸・千円</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都道府県名</th> <th>戸数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>北海道</td> <td>12,006</td> <td>54,346,275</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>長野</td> <td>2,676</td> <td>14,763,656</td> </tr> <tr style="border: 2px solid black;"> <td>3</td> <td>鹿児島</td> <td>1,364</td> <td>9,616,994</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>岐阜</td> <td>1,175</td> <td>4,211,724</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>新潟</td> <td>1,147</td> <td>4,285,351</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">※ 昭和37年度以降建設の市町村立学校分</p> <p>【出典，資料】 公立学校共済組合令和3年度決算附属説明資料</p>	順位	都道府県名	戸数	金額	1	北海道	10,364	104,006,663	2	長野	2,440	25,387,491	3	鹿児島	1,697	18,483,467	4	千葉	1,517	14,363,641	5	東京	1,492	24,384,556	順位	都道府県名	戸数	金額	1	北海道	12,006	54,346,275	2	長野	2,676	14,763,656	3	鹿児島	1,364	9,616,994	4	岐阜	1,175	4,211,724	5	新潟	1,147	4,285,351
順位	都道府県名	戸数	金額																																														
1	北海道	10,364	104,006,663																																														
2	長野	2,440	25,387,491																																														
3	鹿児島	1,697	18,483,467																																														
4	千葉	1,517	14,363,641																																														
5	東京	1,492	24,384,556																																														
順位	都道府県名	戸数	金額																																														
1	北海道	12,006	54,346,275																																														
2	長野	2,676	14,763,656																																														
3	鹿児島	1,364	9,616,994																																														
4	岐阜	1,175	4,211,724																																														
5	新潟	1,147	4,285,351																																														
説明又は解説	<p>公立学校共済組合の資金を活用して建設した教職員住宅の建設戸数及び建設費は，県，市町村とも全国の中でも上位である。</p> <p>これは，「教職員が職務に専念できる環境作り」という観点から，地理的条件や生活環境の整備充実等について総合的に検討した上で，早くから建設に取り組んできた成果であると思われる。</p>																																																
参考																																																	

3 青少年教育関連

事項	① スポーツ少年団の登録団数及び小学生の加入率が高い。																																																											
データ等	<p>本県の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">年度別登録状況</th> <th>全国順位</th> </tr> <tr> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団 数</td> <td>1,082団</td> <td>1,049団</td> <td>1,006団</td> <td>5位</td> </tr> <tr> <td>団 員 数</td> <td>17,442人</td> <td>17,298人</td> <td>16,407人</td> <td>9位</td> </tr> <tr> <td>指 導 者 数</td> <td>3,200人</td> <td>2,829人</td> <td>2,622人</td> <td>11位</td> </tr> <tr> <td>小学生の加入率</td> <td>17.7%</td> <td>17.9%</td> <td>17.0%</td> <td>7位</td> </tr> </tbody> </table> <p>全国の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1位</th> <th>2位</th> <th>3位</th> <th>4位</th> <th>5位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団 数</td> <td>北海道</td> <td>埼玉</td> <td>茨城</td> <td>宮城</td> <td>鹿児島</td> </tr> <tr> <td>団 員 数</td> <td>埼玉</td> <td>北海道</td> <td>茨城</td> <td>宮城</td> <td>静岡</td> </tr> <tr> <td>指 導 者 数</td> <td>埼玉</td> <td>秋田</td> <td>北海道</td> <td>茨城</td> <td>宮城</td> </tr> <tr> <td>小学生の加入率</td> <td>秋田</td> <td>長野</td> <td>山形</td> <td>新潟</td> <td>岩手</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出展，資料】 令和4年度「日本スポーツ少年団登録状況」ほか 【(公財)鹿児島県スポーツ協会・鹿児島県スポーツ少年団】</p>		年度別登録状況			全国順位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和4年度	団 数	1,082団	1,049団	1,006団	5位	団 員 数	17,442人	17,298人	16,407人	9位	指 導 者 数	3,200人	2,829人	2,622人	11位	小学生の加入率	17.7%	17.9%	17.0%	7位		1位	2位	3位	4位	5位	団 数	北海道	埼玉	茨城	宮城	鹿児島	団 員 数	埼玉	北海道	茨城	宮城	静岡	指 導 者 数	埼玉	秋田	北海道	茨城	宮城	小学生の加入率	秋田	長野	山形	新潟	岩手
	年度別登録状況			全国順位																																																								
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和4年度																																																								
団 数	1,082団	1,049団	1,006団	5位																																																								
団 員 数	17,442人	17,298人	16,407人	9位																																																								
指 導 者 数	3,200人	2,829人	2,622人	11位																																																								
小学生の加入率	17.7%	17.9%	17.0%	7位																																																								
	1位	2位	3位	4位	5位																																																							
団 数	北海道	埼玉	茨城	宮城	鹿児島																																																							
団 員 数	埼玉	北海道	茨城	宮城	静岡																																																							
指 導 者 数	埼玉	秋田	北海道	茨城	宮城																																																							
小学生の加入率	秋田	長野	山形	新潟	岩手																																																							
説明	<ul style="list-style-type: none"> 県内のスポーツ少年団員数は、少子化や子どもたちの志向の多様化などにより、年々減少している。(全国的傾向である。) 団員数のピークは、昭和61年で50,148人である。 																																																											
参考	<p>スポーツ少年団の健全育成のために</p> <ul style="list-style-type: none"> 各単位団に登録指導者がいないと団登録を認めていない。(昭和62年度から実施) ジュニア・リーダースクールやリーダー研修会，スタートコーチ養成講習会を計画的に実施している。 																																																											

事項	② 「市町村子ども読書活動推進計画」の策定率が高い。																		
データ等	<p>九州各県の「市町村子ども読書活動推進計画」策定状況(令和4年3月31日現在)</p> <table border="1" data-bbox="464 427 1246 1182"> <thead> <tr> <th>都道府県名</th> <th>策定率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福岡県</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>佐賀県</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>長崎県</td> <td>85.7</td> </tr> <tr> <td>熊本県</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>大分県</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>宮崎県</td> <td>61.5</td> </tr> <tr> <td>沖縄県</td> <td>73.2</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※全国の市町村策定率83.5% (1,454市町村/1,741市町村)</p> <p>【出典, 資料】 令和4年3月 文部科学省報道発表資料より</p>	都道府県名	策定率(%)	福岡県	100.0	佐賀県	55.0	長崎県	85.7	熊本県	100.0	大分県	100.0	宮崎県	61.5	沖縄県	73.2	鹿児島県	100.0
都道府県名	策定率(%)																		
福岡県	100.0																		
佐賀県	55.0																		
長崎県	85.7																		
熊本県	100.0																		
大分県	100.0																		
宮崎県	61.5																		
沖縄県	73.2																		
鹿児島県	100.0																		
説明	<p>「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条の規定により、都道府県及び市町村は、それぞれ「子ども読書活動推進計画」を策定するよう努めなければならないとされている。</p> <p>文部科学省では、平成15年よりその策定状況を把握するため、毎年調査を行っている。</p> <p>本県では、平成19年3月末に全ての市町村において「市町村子ども読書活動推進計画」が策定された。その後、市町村合併に伴い、合併した市町村は新たな推進計画作りに着手し、平成24年3月末までに県内の全ての市町村が策定済みである。</p> <p>策定率100%は、本県を含めて全国で12県である。(秋田県、福島県、栃木県、富山県、岐阜県、滋賀県、岡山県、徳島県、福岡県、熊本県、大分県、鹿児島県)</p>																		
参考																			

事項	③ 住んでいる地域の行事への児童生徒の参加率が高い。																																								
データ等	<p><全国学力・学習状況調査の質問紙調査> 質問事項「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」に「当てはまる」, 「どちらかといえば, 当てはまる」と回答した児童・生徒の割合 (%)</p> <p>【小学校】</p> <table border="1" data-bbox="287 571 1300 974"> <thead> <tr> <th>調査年度</th> <th>鹿児島県</th> <th>全国</th> <th>鹿児島県と全国との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>69.1</td> <td>62.7</td> <td>6.4</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>72.7</td> <td>68.0</td> <td>4.7</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>62.7</td> <td>58.1</td> <td>4.6</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>59.1</td> <td>52.7</td> <td>6.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 令和2年度は中止</p> <p>【中学校】</p> <table border="1" data-bbox="287 1086 1300 1444"> <thead> <tr> <th>調査年度</th> <th>鹿児島県</th> <th>全国</th> <th>県と全国との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>50.9</td> <td>45.6</td> <td>5.3</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>54.2</td> <td>50.6</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>46.9</td> <td>43.7</td> <td>3.2</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>42.1</td> <td>40.0</td> <td>2.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 令和2年度は中止</p> <p>【出典, 資料】 「全国学力・学習状況調査」児童・生徒質問紙調査結果</p>	調査年度	鹿児島県	全国	鹿児島県と全国との差	平成30年度	69.1	62.7	6.4	令和元年度	72.7	68.0	4.7	令和3年度	62.7	58.1	4.6	令和4年度	59.1	52.7	6.4	調査年度	鹿児島県	全国	県と全国との差	平成30年度	50.9	45.6	5.3	令和元年度	54.2	50.6	3.6	令和3年度	46.9	43.7	3.2	令和4年度	42.1	40.0	2.1
調査年度	鹿児島県	全国	鹿児島県と全国との差																																						
平成30年度	69.1	62.7	6.4																																						
令和元年度	72.7	68.0	4.7																																						
令和3年度	62.7	58.1	4.6																																						
令和4年度	59.1	52.7	6.4																																						
調査年度	鹿児島県	全国	県と全国との差																																						
平成30年度	50.9	45.6	5.3																																						
令和元年度	54.2	50.6	3.6																																						
令和3年度	46.9	43.7	3.2																																						
令和4年度	42.1	40.0	2.1																																						
説明又は解説	<p>本県は, 毎年4月に実施される「全国学力・学習状況調査」(小学校6年生, 中学校3年生: 悉皆調査)における児童・生徒質問紙調査結果において, 地域行事への参加率が, 全国平均を上回っている。</p> <p>令和4年度は例年より参加率は減少しているものの, 小学校においては6.4%, 中学校においては2.1%, 全国よりも高くなっている。</p>																																								
参考																																									

4 家庭教育関連

事項	① 「家庭の日」の発祥の町は、鹿児島県さつま町（旧鶴田町）である。
デ イ タ 等	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>昭和30(1955)年 全国に先駆けて、第3日曜日を「家庭の日」に設定</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和38年 「運動」として盛り上がる。 ・昭和40年 鹿児島県が、第3日曜日を「家庭の日」に制定。 ・昭和41年 総理府の外郭団体・青少年育成国民会議の発足を期に 会員団体を通じて全国に広がる。 ・現 在 家庭教育の重要性に鑑み、再び脚光を浴びている。
説 明 又 は 解 説	<p>「家庭の日」は、当時、農作業に追われ休めない農業従事者が多く、薄れつつあった家族の絆を取り戻そうと、「農休日」などの目的で全国に先駆けて誕生した。</p> <p>青少年の健全育成を推進するに当たり、人格形成の基盤である家庭環境の重要性を鑑み、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、全ての家庭が円満で情意に満ちた明るい家庭を作るよう、広く県民の自覚と意識の高揚を図るために設定された。</p>
参考	

事項	② 家庭教育や地域ぐるみの子育てに対する父親の参加が活発である。																						
データ等	<p style="text-align: center;">県内の「親父（おじ）の会」等の結成状況（令和4年3月現在）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 20%;">学校種 (公立)</th> <th style="width: 15%;">組織数</th> <th style="width: 15%;">組 織 率</th> <th style="width: 30%;">(参考)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">学校区別での 「親父の会」 等の結成状況</td> <td style="text-align: center;">小学校区 (484)</td> <td style="text-align: center;">1 9 6</td> <td style="text-align: center;">4 0 . 5 %</td> <td rowspan="5" style="vertical-align: middle;">・会員数 11, 725人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">中学校区 (205)</td> <td style="text-align: center;">6 7</td> <td style="text-align: center;">3 2 . 7 %</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">義務教育学校 (9)</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">2 2 . 2 %</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">小中合同</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">2 6 8</td> <td style="text-align: center;">3 8 . 2 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出典，資料】 「令和3年度鹿児島県の社会教育・生涯学習の現状について」</p>		学校種 (公立)	組織数	組 織 率	(参考)	学校区別での 「親父の会」 等の結成状況	小学校区 (484)	1 9 6	4 0 . 5 %	・会員数 11, 725人	中学校区 (205)	6 7	3 2 . 7 %	義務教育学校 (9)	2	2 2 . 2 %	小中合同	3	—	計	2 6 8	3 8 . 2 %
	学校種 (公立)	組織数	組 織 率	(参考)																			
学校区別での 「親父の会」 等の結成状況	小学校区 (484)	1 9 6	4 0 . 5 %	・会員数 11, 725人																			
	中学校区 (205)	6 7	3 2 . 7 %																				
	義務教育学校 (9)	2	2 2 . 2 %																				
	小中合同	3	—																				
	計	2 6 8	3 8 . 2 %																				
説明又は解説	<p>県教育委員会では，父親の家庭教育への参画を促すため，フォーラム「父・かえる」や「おやじサミット」等を開催してきた。（平成19年度で終了）</p> <p>開催後に，県内各地で「親父の会」等が組織され，家庭教育はもとより，地域ぐるみの子育てやP T A活動への協力など，積極的な活動の展開が今もなされている。</p> <p>また，親父の会同士の活動報告会や交流等を行っているところもある。</p>																						
参考																							

事項	③ 県PTA連合会の重点運動「一家庭一家訓の設定」は、全国に先駆けた家庭教育の実践運動である。																	
データ	<p>令和4年度県内各単位PTAでの「一家庭一家訓の設定」の取組状況</p> <table border="1" data-bbox="316 450 1193 1003"> <thead> <tr> <th data-bbox="316 450 549 528"></th> <th data-bbox="549 450 879 528">学 校 種</th> <th data-bbox="879 450 1193 528">実 施 率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="316 528 549 607" rowspan="3">単位PTAの</td> <td data-bbox="549 528 879 607">小 学 校 P T A</td> <td data-bbox="879 528 1193 607">69.4%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="549 607 879 685">中 学 校 P T A</td> <td data-bbox="879 607 1193 685">57.3%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="549 685 879 763">小 中 併 設 P T A</td> <td data-bbox="879 685 1193 763">80.8%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="316 763 549 842" rowspan="3">組織的な取組</td> <td data-bbox="549 763 879 842">義 務 教 育 P T A</td> <td data-bbox="879 763 1193 842">77.8%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="549 842 879 920">高 校 P T A</td> <td data-bbox="879 842 1193 920">3.4%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="549 920 879 999">特 別 支 援 学 校 P T A</td> <td data-bbox="879 920 1193 999">31.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="810 1021 1171 1059">※ 協力単P数：661</p> <p data-bbox="264 1099 1046 1137">【出典，資料】鹿児島県PTA連合会 ホームページ</p>		学 校 種	実 施 率	単位PTAの	小 学 校 P T A	69.4%	中 学 校 P T A	57.3%	小 中 併 設 P T A	80.8%	組織的な取組	義 務 教 育 P T A	77.8%	高 校 P T A	3.4%	特 別 支 援 学 校 P T A	31.3%
	学 校 種	実 施 率																
単位PTAの	小 学 校 P T A	69.4%																
	中 学 校 P T A	57.3%																
	小 中 併 設 P T A	80.8%																
組織的な取組	義 務 教 育 P T A	77.8%																
	高 校 P T A	3.4%																
	特 別 支 援 学 校 P T A	31.3%																
説明又は解説	<p>県PTA連合会が「一家庭一家訓の設定」を全会員共通の実践事項として重点化し、全県的に展開することで、各家庭に浸透してきている。家訓の内容として、食育と関連づけたものや基本的な生活習慣に関すること、道徳的实践項目などがある。</p> <p>各単位PTAでは、PTAのスローガンに一家庭一家訓を掲げるなど、家庭教育の充実につながる取組を行っている。</p>																	
参考	鹿児島県PTA連合会 ホームページに調査結果が掲載されている。																	

5 社会教育施設関連

事項	① 優良公民館としての受賞館（文部科学大臣表彰）が多い。																					
データ	<table border="1" data-bbox="295 504 805 929"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都道府県</th> <th>公民館数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>広島</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>鹿児島</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>福島</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>岩手</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>山口</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>石川</td> <td>82</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="287 940 1324 985">※ 昭和23年度から令和4年度までの大臣表彰を受けた優良公民館数</p> <p data-bbox="287 1064 494 1108">【出典，資料】</p> <p data-bbox="335 1120 1308 1164">「全公連50年史」（全公連発行）……昭和23年度～平成12年度</p> <p data-bbox="335 1176 1396 1220">「全国公民館名鑑平成17年度版」（全公連発行）……平成15・16年度</p> <p data-bbox="335 1232 1244 1276">「文部科学省ホームページ」……平成13, 14, 17～令和4年度</p>	順位	都道府県	公民館数	1	広島	92	2	鹿児島	89	3	福島	87	4	岩手	85	5	山口	83	6	石川	82
順位	都道府県	公民館数																				
1	広島	92																				
2	鹿児島	89																				
3	福島	87																				
4	岩手	85																				
5	山口	83																				
6	石川	82																				
説明又は解説	<p data-bbox="247 1422 1412 1590">公民館のうち，特に事業内容・方法等に工夫をこらし，地域住民の学習活動に大きく貢献しているものを優良公民館として文部科学大臣が表彰する制度で，昭和23年度から始まった。</p>																					
参考																						

6 生涯学習関連

事項	① 県人口に占める放送大学学習センターの在学者数の割合が高い。					
データ	2	年度	順位	都道府県名	学習者数(人)	1万人当たりの人数(人)
		1	1	石川県	2,516	21.8
		2	2	京都府	4,275	16.4
		3	3	東京都	18,109	13.4
		4	4	高知県	899	12.3
		5	5	沖縄県	1,429	10.0
		6	6	鹿児島県	1,461	8.9
		全	全	国	87,053	6.9
	3	1	1	石川県	2,258	19.9
		2	2	京都府	4,406	17.1
		3	3	高知県	1,053	15.2
		4	4	東京都	19,199	13.7
		5	5	沖縄県	1,449	9.9
		6	6	鹿児島県	1,386	8.7
		全	全	国	88,922	7.0
		4	1	1	京都府	4,361
	2		2	石川県	1,885	16.6
	3		3	高知県	1,109	16.0
	4		4	東京都	19,400	13.8
	5		5	沖縄県	1,424	9.7
	6		6	鹿児島県	1,350	8.5
全	全		国	87,776	6.9	
説明又は解説	<p>放送大学鹿児島学習センターの開所（平成10年10月）により、テレビ、ラジオ等で、いつでも、どこでも、だれでも、高度で専門的な学習機会を得ることができるようになり、離島を多く有する本県にとってのメリットは大きい。</p> <p>平成15年4月からは、かごしま県民交流センター内に移転した。</p> <p>また、平成21年4月にセンター外再視聴室を県立奄美図書館に移設し、平成22年度から単位認定試験を奄美市内でも受験できることとなった。</p> <p>平成28年には、鹿児島学習センターで実施する面接授業のインターネットでの配信を開始し、県立奄美図書館で視聴できることとなった。</p> <p>放送大学鹿児島学習センターは、平成30年に開設20年を迎えた。</p> <p>(※再視聴：放送大学の授業をビデオ、DVD等でいつでも視聴できる。)</p>					
参考						

※人口は、令和2年度までは平成27年、令和3年度以降は令和2年国勢調査に基づく人口
【出典、資料】 放送大学鹿児島学習センターの概要（毎年度2学期現在）

7 文化財関連

事項	① 国の特別天然記念物の指定数が多い。												
データ	<p>国の特別天然記念物指定数</p> <table border="1" data-bbox="295 571 790 795"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都道府県名</th> <th>指定数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>鹿児島</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>北海道</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>岩手</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>【出典，資料】 「文化財指定等の件数」 （令和4年6月1日現在） (文化庁HP https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sitei.html)</p>	順位	都道府県名	指定数	1	鹿児島	6	2	北海道	5	3	岩手	4
順位	都道府県名	指定数											
1	鹿児島	6											
2	北海道	5											
3	岩手	4											
説明又は解説	<p>◎本県にある国指定特別天然記念物の名称</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鹿児島県のツルおよびその渡来地 2 喜入のリュウキュウコウガイ産地 3 蒲生のクス 4 鹿児島県のソテツ自生地 5 屋久島スギ原始林 6 枇榔島亜熱帯性植物群落 <p>※ アマミノクロウサギは種指定（地域定めず）のため含めない。</p>												
参考													

事項	② 屋久島の縄文杉は、日本最大級のスギである。																								
データ	<table border="1" data-bbox="312 555 1283 907"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>名称</th> <th>所在地</th> <th>幹周り (cm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>将軍杉</td> <td>新潟</td> <td>1,931</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>縄文杉</td> <td>鹿児島</td> <td>1,610</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>杉の大杉 (神代杉)</td> <td>高知</td> <td>1,560</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>洞杉</td> <td>富山</td> <td>1,560</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>清澄の大杉 (千年杉)</td> <td>千葉</td> <td>1,505</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="268 976 863 1070">【出典, 資料】 環境省 巨樹・巨木林データベース</p>	順位	名称	所在地	幹周り (cm)	1	将軍杉	新潟	1,931	2	縄文杉	鹿児島	1,610	3	杉の大杉 (神代杉)	高知	1,560	3	洞杉	富山	1,560	5	清澄の大杉 (千年杉)	千葉	1,505
順位	名称	所在地	幹周り (cm)																						
1	将軍杉	新潟	1,931																						
2	縄文杉	鹿児島	1,610																						
3	杉の大杉 (神代杉)	高知	1,560																						
3	洞杉	富山	1,560																						
5	清澄の大杉 (千年杉)	千葉	1,505																						
説明又は解説	<p data-bbox="252 1328 1406 1480">屋久島町の標高1,300m程に所在する「縄文杉」は樹高25.3m、幹周り16.1mあり、日本最大級のスギである。樹齢は約3,000年とも7,200年ともいわれている。</p> <p data-bbox="284 1563 592 1776">縄文杉 根周り：約43m 幹周り：約16.1m 樹高：約25.3m</p>																								
参考																									

事項	③ ツルの渡来地である出水平野は、渡来数日本一である。
データ	<p>年度別ツル渡来数（過去5年間）</p> <p>平成29年度 15,360羽 平成30年度 14,286羽 令和元年度 15,529羽 令和2年度 17,315羽（計測史上最高） 令和3年度 16,840羽 令和4年度 10,074羽</p> <p>【出典，資料】</p> <p>平成29年度～令和元年度 長期的ツル保護対策調査事業業務委託報告書（出水市教育委員会） 令和2～4年度 ツル保護会作成資料</p> <p>国の天然記念物としての渡来地 山口県周南市 令和4年度 13羽</p>
説明	<p>出水平野には、世界中のナベヅルの約9割，マナヅルの約5割が飛来するといわれ，その渡来数は日本一である。本県以外のツルの国の天然記念物としての渡来地には，山口県周南市八代がある。</p> <p>本県では，平成9年度から26年連続1万羽以上のツルが渡来している。</p> <p>「鹿児島県のツルおよびその渡来地」は昭和27年3月29日に国の特別天然記念物に指定された。（天然記念物指定は大正10年3月3日）</p> <p>なお，タンチョウヅルの周年生息地としては，北海道が知られている。</p>
参考	

事項	④ 始良市蒲生町のクスノキは、日本一の大クスである。																												
データ	<table border="1" data-bbox="312 504 1078 862"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>名 称</th> <th>所在地</th> <th>幹周り(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>蒲生のクス</td> <td>鹿児島</td> <td>24.2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>来宮神社の大クス</td> <td>静岡</td> <td>23.9</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>本庄のクス</td> <td>福岡</td> <td>21.0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>川古のクス</td> <td>佐賀</td> <td>21.0</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>衣掛の森</td> <td>福岡</td> <td>20.0</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>武雄の大クス</td> <td>佐賀</td> <td>20.0</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="268 920 475 954">【出典，資料】</p> <p data-bbox="336 972 999 1005">「かごしま文化財事典」鹿児島県教育委員会</p> <p data-bbox="336 1023 898 1057">「巨樹・巨木」渡辺典博 山と溪谷社</p> <p data-bbox="336 1075 932 1108">「日本の巨樹100選」大貫 茂 淡交社</p>	順位	名 称	所在地	幹周り(m)	1	蒲生のクス	鹿児島	24.2	2	来宮神社の大クス	静岡	23.9	3	本庄のクス	福岡	21.0	3	川古のクス	佐賀	21.0	5	衣掛の森	福岡	20.0	5	武雄の大クス	佐賀	20.0
順位	名 称	所在地	幹周り(m)																										
1	蒲生のクス	鹿児島	24.2																										
2	来宮神社の大クス	静岡	23.9																										
3	本庄のクス	福岡	21.0																										
3	川古のクス	佐賀	21.0																										
5	衣掛の森	福岡	20.0																										
5	武雄の大クス	佐賀	20.0																										
説明	<p data-bbox="252 1227 1406 1361">始良市蒲生町八幡神社境内のクスノキは、昭和63（1988）年の環境庁（現環境省）の第4回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木調査で日本最大の巨樹と認められた。</p> <p data-bbox="252 1379 1406 1464">昭和27年3月29日に国の特別天然記念物に指定された。（天然記念物指定は大正11年3月8日）</p> <p data-bbox="284 1532 695 1771"> 蒲生のクス 根 周 り：33.57m 幹 周 り：24.22m 樹 高：約30m 推 定 樹 齢：約千数百年 </p>																												
参考																													

事項	⑤ 上野原遺跡は、国内で最古最大級の縄文時代早期前葉（約10,600年前）の定住化した集落跡である。																												
年代等	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> </td> <td style="vertical-align: top;">約10,600年前</td> <td style="vertical-align: top;">上野原遺跡</td> <td style="vertical-align: top;">縄</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> </td> <td style="vertical-align: top;">約5,500年前</td> <td style="vertical-align: top;">三内丸山遺跡（青森県）</td> <td style="vertical-align: top;">文</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> </td> <td style="vertical-align: top;">約4,500年前</td> <td style="vertical-align: top;">尖石遺跡（長野県）</td> <td style="vertical-align: top;">時</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> </td> <td style="vertical-align: top;">約3,500年前</td> <td style="vertical-align: top;">津雲貝塚（岡山県）</td> <td style="vertical-align: top;">代</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> </td> <td style="vertical-align: top;">約2,500年前</td> <td style="vertical-align: top;">真脇遺跡（石川県）</td> <td style="vertical-align: top;">↓</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> </td> <td style="vertical-align: top;">約2,000年前</td> <td style="vertical-align: top;">吉野ヶ里遺跡（佐賀県）</td> <td style="vertical-align: top;">↑</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> </td> <td style="vertical-align: top;">約1,900年前</td> <td style="vertical-align: top;">登呂遺跡（静岡県）</td> <td style="vertical-align: top;">↓</td> </tr> </table>		約10,600年前	上野原遺跡	縄		約5,500年前	三内丸山遺跡（青森県）	文		約4,500年前	尖石遺跡（長野県）	時		約3,500年前	津雲貝塚（岡山県）	代		約2,500年前	真脇遺跡（石川県）	↓		約2,000年前	吉野ヶ里遺跡（佐賀県）	↑		約1,900年前	登呂遺跡（静岡県）	↓
	約10,600年前	上野原遺跡	縄																										
	約5,500年前	三内丸山遺跡（青森県）	文																										
	約4,500年前	尖石遺跡（長野県）	時																										
	約3,500年前	津雲貝塚（岡山県）	代																										
	約2,500年前	真脇遺跡（石川県）	↓																										
	約2,000年前	吉野ヶ里遺跡（佐賀県）	↑																										
	約1,900年前	登呂遺跡（静岡県）	↓																										
説明	<p>52棟の竪穴住居跡を中心に、屋外の調理施設と考えられる39基の集石遺構や16基の連穴土坑等、多様な遺構が多数検出されており、南九州地域における定住化初期の様相を示す大集落跡として知られている。</p> <p>遺跡は保存され、平成11年1月には国史跡に指定された。その後、史跡公園として整備され、平成14年10月に「鹿児島県上野原縄文の森」として開園した。</p>																												
参考																													

事項	<p>⑥ 上野原遺跡に代表される南九州の縄文時代早期後葉(約8,600年前)の遺跡から出土した壺形土器と土製耳飾りは、国内最古級の資料である。</p>
データ	<p>上野原遺跡出土の壺形土器は、約8,600年前の幾何学文様をもつ平椀式土器と呼ばれる土器群の1器種である。</p> <p>上野原遺跡では、11個体の壺形土器が完形で出土した。これらは遺跡の中で標高がもっとも高い場所から出土し、ススが付着したものが多く、土坑内に埋められた状態で出土したことから、何らかの祭祀的な機能を伴ったものと考えられている。土坑のうちの1基からは、壺形土器が土坑内に2個並んだ状態で出土した。</p> <p>土製耳飾りは、耳たぶに孔をあけて挿入するもので、環状を呈する輪状^{わじょう}耳栓^{じせん}と環状を呈さない円盤形態の臼形耳栓^{うすがたじせん}の2種類が出土した。直径は大きいもので15cm、小さいもので3cm程であった。土製の耳飾りには、「幾何学文様」「渦巻き文様」「S字文様」などの文様をつけたり、ベンガラで赤く彩色したものも見られた。</p>
説明又は解説	<p>壺形土器は弥生時代(約2,200年前)に、土製耳飾りは縄文時代後期(約3,500年前)に出現するのが一般的であるが、上野原遺跡に代表される南九州では、既に縄文時代早期後葉(約8,600年前)に出現している。</p> <p>平成10年6月に縄文時代早期後葉(約8,600年前)の上野原遺跡の出土品767点が国指定重要文化財に指定された。</p>
参考	

事項	<p>⑦ 旧石器時代の生活跡（南種子町横峯C遺跡・中種子町立切遺跡）と落とし穴の跡（中種子町立切遺跡）は、国内最古級である。</p>
データ等	<p>旧石器時代の遺跡の中で、約35,000年以前までさかのぼる例は、本県の横峯C遺跡や立切遺跡のほか、宮崎県の後牟田遺跡、熊本県石の本遺跡及び曲野遺跡、静岡県の子石原遺跡等が確認されているのみである。</p> <p>横峯C遺跡や立切遺跡では、焼土跡や礫群、土坑などの生活跡がまとめて検出された。</p> <p>落とし穴については、これまで約27,000年前の静岡県初音ヶ原遺跡の例が日本最古といわれていたが、平成18年11月、立切遺跡で約35,000年以前の落とし穴が検出された。</p> <p>【出典，資料】</p> <p>稲田孝司『遊動する旧石器人』岩波書店 後牟田遺跡調査団，川南町教育委員会『後牟田遺跡』 静岡県三島市教育委員会 「初音ヶ原A遺跡第2地点・B遺跡第3地点」</p>
説明又は解説	<p>横峯C遺跡と立切遺跡の礫群（調理施設）や立切遺跡の落とし穴（34基）は、後期旧石器時代初頭に相当する約35,000年以前のもので、国内最古級のものとして位置付けられる。</p> <p>この2か所の遺産は保存され、令和4年11月に「立切遺跡・横峰遺跡」として国史跡にしていされた。</p>
参考	